

第4号様式（第8条関係）

議 事 録

会議名	令和元年度 第1回寒川町生活支援・介護予防サービス基盤整備推進会議		
開催日時	令和元年7月23日（火曜日）10：00～12：00		
開催場所	寒川町役場 3階 議会第1会議室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	出席委員：三澤委員（委員長）、中間委員（副委員長） 小西委員、小黑委員、鎌田委員、森委員 佐藤（敬）委員、中澤委員（8名） 欠 席：彦根委員 事務局：木村町長、亀山福祉部長 鈴木福祉部参事兼高齢介護課長 仲手川副主幹、佐野主査 後藤主任主事、柏木主任主事 社会福祉協議会：浅野生活支援コーディネーター 傍聴者数：なし		
議 題	1. 委員長・副委員長の選出について 2. 議事録承認委員について 3. 寒川町生活支援・介護予防サービス基盤整備推進会議について 4. 生活支援コーディネーター活動報告 5. 岡田県営住宅地域における生活支援サービスについて		
決定事項	岡田県営住宅地域における生活支援サービスを今回の推進会議の任期中のテーマとして取り扱うこととし、まずニーズ把握のための聞き取り調査を生活支援コーディネーターが行う。聞き取り調査に使用する調査票については、案が出来たら各委員に送付を行い、意見を伺う。		
公開又は非公開の別	公開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	＜議事前段の進行＞ ○委嘱状交付 町長より、各委員へ委嘱状の交付 ○町長挨拶 ～町長退席～ ○委員自己紹介		

	○事務局自己紹介 ○あいさつ <ここから議事> 議題1 委員長・副委員長の選出について 委員互選により選出。委員より委員長に三澤委員、副委員長に中間委員を推薦する旨の発言あり。出席委員の了承により、委員長に三澤委員、副委員長に中間委員を選出。 以降は委員長である三澤委員の司会で進行。 ○委員長挨拶 三澤委員長 議題2 議事録署名委員について 事務局：慣例により、委員名簿の上から2名（委員長・副委員長は除く）ずつ順番にお願いしている。議事録は要点筆記で行う。署名委員に送付し確認が取れたら、確認日を事務局で入力（記載）する。その後委員にも送付し、町のホームページに掲載することで公開とする。 三澤委員長：事務局の説明より、今回は小西委員と小黒委員が議事録署名委員となるがいかがか。 異議なしと認め、本回の議事録署名委員は小西委員、小黒委員とする。 議題3 寒川町生活支援・介護予防サービス基盤整備推進会議について 事務局：【資料3を用いて推進会議について、生活支援体制整備事業としての目的などを、生活支援コーディネーターとの関係にも触れながら説明】 質疑なし 議題4 生活支援コーディネーター活動報告 浅野Co：【資料4,5を用いて、本年度の生活支援コーディネーターの事業計画と平成31年4月から令和元年6月までの活
--	---

【動内容について報告】

三澤委員長：地域に出向いてニーズ把握を行われるという話があったが、地域の自治会長から社会福祉協議会への相談が最も多いのはどこなのだろうか。

浅野Co：やはり岡田県営住宅エリアの自治会長だろうか。本年度に入ってから何度か相談をいただいている。岡田県営住宅エリアは2自治会があり、それぞれの会長さんから、回覧板が回らないといった話や防災訓練での困りごとなどをいただいている。支援する側の方も少ない印象があり、自治会長自らが草刈りなどを行っている現状もある。

森委員：今、生活支援コーディネーターが話した内容を社会福祉協議会として伺っているところ。色々なご相談を自治会長さんからいただいている。今後、寒川町の中でも高齢者がどんどん増えていくということで、そういった方の生活支援をこの会議で考えていきたい。

この基盤整備推進会議というのは、行政やコーディネーター目線ではなく、地についた住民の目線で物事を考えることが大事だと考えている。この生活支援という分野は、防災と似たところがあると感じている。まずは、自分での自助、それから、隣近所での共助、それで、最後に役場などの公助と、そういった組織立てで考えていかなければ上手くいかないと考えている。

森委員：先ほど、生活支援コーディネーターから紹介があった、生活支援コーディネーターの活動の一つとして、地域資源のマップの作製というものがある。現状、これは上手く活用出来ているとは考えていない。現状は、健康管理センターに掲示しているのみとなっているが、もっと、冊子のような形にするなどし、多くの方の手に取って、見ていただける形としたい。また、掲載している情報についても、現在は施設名と場所が解るのみであるので、今後は、もっと、老人ホームであれば、どのようなサービスを受けることが出来て、対応が可能なのは何人なのかといったような役立つ情報を掲載するところまで、一歩踏み込んだ形としたい。

中間副委員長：私は、健康管理センターをよく利用させていただくので、地域資源マップについては目にしている。資源マップに掲載してある情報は、先ほど森委員が言われた様に、名前のみであるので、その地域資源についての詳細が書かれているチラシなどを持ち帰れるようにするなどしたら、よいのではないかと思う。町民センターで同様の手法を行っており、これはいいな、と思った。

三澤委員長：地域資源マップの掲示は、そこを訪れる人は情報に触れることが出来ると思うが、生活支援・介護予防の基盤ということから考えれば、そこを訪れることが出来ない人々にこそ情報を届けるべき。自宅に引きこもり、外に出ないというのが一番危惧される状況なので、そういった人達に外出してもらうための一助となるようなものとしていただきたい。

コンパクトな寒川町といえども、町の中心部に出やすい地域、コミュニティバス等に乗れば中心部に出ることが出来る地域、移動手段が乏しく町の中心部に出ることが難しい地域等があると思うので、そういった視点からも考えていただければと思う。なかなか難しいが、何かの際には高齢者にはプラスアルファの移動手段があるとやはり良い。他市町となるが、選挙の際に、移動手段として臨時バスを運行する市町があるとも聞いている。

浅野Co:資源マップの運用については、掲示だけでなく、その他の情報を地域の皆様に届けることが出来る手法についても考えていきたい。

中澤委員：民生委員の中でも話題にあがるのだが、民生委員という立場は外出が難しい人と接する機会が割とあり、そういった方の情報等を得やすいと感じている。訪問をした際に相談などを受けることもあるので、今後、生活支援コーディネーターとの連携を深めていきたいと思う。

また、これは民生委員としての話となるが、「民生委員はどこまで関わるべきなのか」ということが、ちよくちよく疑問としてあがる。民生委員の中でも意見の食い違いがある点であ

り、あまり深く関り過ぎてしまうと、民生委員だけを頼りに
なってしまうので、それを危惧する声もある。民生委員も交代
することがあるので、そのあたりでの調整が難しいと感じてい
る。この会議では、民生委員として、そのような動けない方々
への関り方を行政の考え方と合わせて考えていきたいと思
う。

小黒委員：私は、そもそも、自分たちの地域についても詳しく
ない方が多いので、どうやって地域で助けを求めたらいいのか
が解らないのではないかとと思っている。例えば、この地域では
こういった形になっているよ、といったような事を教えてもら
えるような声掛けがあればいいな、と考えている。私の夫もだ
が、ずっと会社で仕事をしてきて、地域に馴染みがない人間は、
どこにどんな人が居て、どんな自治会なのかといったことも解
らない。そういった人に少しずつでいいから地域を知ってもら
うことが必要なのではないだろうか。

三澤委員：小黒委員の今の話だが、そうすると、やはり「自治
会には加入しましょう」といったことになる。ただ、自治会側
としてもどこにどういった人がいて、ということを把握するの
は一苦勞であると思う。

浅野Co：町の福祉課において、自己申告制ではあるが、要援護
者名簿を作成しており、その情報は社会福祉協議会でもいた
っており、自治会にもその名簿が提供されている。

三澤委員：それらの公的な名簿等は社会福祉協議会や自治会で
の備えとして共有はされていると思うが、各家庭にまでは頒布
されないものということによいか。

浅野Co：その通りとなる。

三澤委員長：とすれば、やはり各世帯において、ご近所をどこ
まで把握できるかというのは、それぞれの付き合い次第といっ
たことになると思う。

浅野Co: 近所との付き合い方は、やはり地域やその家庭ごとになってしまう。「回覧板を対面で必ず届ける」といった地域もあれば、「ドアノブにかけて終わり」というところもあり、「そもそも回覧板を回すことが難しいので掲示板方式にした」というところもある。本当に隣人がどのような方であるか、というのは、やはり個々の家庭の付き合い次第。

森委員: 先ほどの要援護者名簿も、自己申告制であり、全部が全部を把握するというのはやはり無理なこととも思う。防災の関連から言えば、一之宮が広域で援助が必要な人の情報を共有するような取り組みをしているというのは聞いたことがある。

事務局: お話にあがっている要援護者名簿については、かなり詳細な個人情報が含まれており、それを様々なことに活用できるかと言われれば難しいということはご理解いただきたい。

浅野Co: 災害時の避難に支障があると考えられる方々については、やはり、日常的な生活支援ニーズについてもお持ちの可能性があるので、その点についても考慮しながら、今後の生活支援コーディネーターの活動を行っていききたい。

議題5 岡田県営住宅地域における生活支援サービスについて

浅野Co: 【資料6を用いて、本年度の寒川町生活支援・介護予防基盤整備推進会議として、岡田県営住宅地域における生活支援サービスの検討をメインテーマとし、まずは聞き取り調査によるニーズ把握を行いたい旨を説明】

三澤委員長: やはり、調査方法は今、ご説明いただいたように聞き取り調査がふさわしいと思う。アンケートによる調査では、調査票に記載してそれを返信してということ自体が難しいかたもいらっしゃると思う。

浅野Co: 実際に対面して話すことで、色々な情報をいただけると考えている。社会福祉協議会としてのサービス利用者について

	ても調査の対象としていく予定であるが、実際にご自宅にお伺いしてヒアリングでご意見をいただくことで把握できる生活支援のニーズがあると思っている。 三澤委員長：資料によると岡田7丁目としては、65歳以上の方が670名いるとなっているので、それらの方から上手く情報を得ていただければと思う。 浅野Co:現在のところ、それらの高齢者の方を無作為抽出して満遍なく意見をいただくという手法は考えていない。資料に記載している聞き取り調査の対象とさせていただいた方々にヒアリングを行う予定である。 三澤委員長：既に何がしかの支援を受けている方には、これで意見を伺えるかもしれないが、先ほどの話に出たような家に閉じこもってしまうような方などについてはどのように把握する予定か。 浅野Co:調査の対象として、岡田県営住宅地域でサロン活動を実施しているボランティアグループを挙げている。そこを訪れる人達からの情報収集を活用して、閉じこもりがちな方からの情報収集についても考えていきたい。 三澤委員長：調査の総数としては、200くらいになるのだろうか。 浅野Co：調査の数としては、定めていない。ただ、そこまで大規模な調査にする予定も現状ではなかった。あとは、聞き取り調査の対象として地域包括支援センターを加えていければと話を聞いていて思った。 佐藤委員：包括支援センターに寄せられる、岡田県営住宅地域からの相談事というと、生活支援というものよりも、もっと重篤で喫緊な相談が多い印象。我々としてもそういった相談が来た場合には、担当されている民生委員さんが、とてもよくご存じなので、協力をいただいている。
--	---

	鎌田委員：この字別人口には外国籍の方も入っておられるのか。 浅野Co：含めている。 鎌田委員：外国籍の方は、ご自身の親御さんと呼ばれ寄せられていたりするので、そういったことから生活支援ニーズがあるかもしれない。 中間副委員長：実を言うと、岡田の県営住宅地域の単位老人クラブが、以前に、シニアクラブ連合会から脱退したいという相談を受けたこともある。高齢化が進んで、会長を担う人がいないとのことだった。当時は、自治会長を含めて会談した結果、存続することとなったが、そんな状況もある。単位クラブの会長の後任問題についてはどのエリアでも、それこそ県全体で抱えていることだが、そんな事もあった。 ○その他 浅野Co：【今後の予定について説明】 推進会議は次回9月下旬から10月上旬を考えているが、調査の進捗によっては後ろにずれる可能性がある。また、今回の会議でのご意見を踏まえた上で、岡田県営住宅地域への聞き取り調査を行う調査票を作成するが、その調査票については、事前に委員の皆様にお送りさせていただき、ご意見を頂戴出来ればと考えているのでご了承いただきたい。 (閉会) ○副委員長挨拶 中間委員
配付資料	配布資料 資料1 寒川町生活支援・介護予防サービス基盤整備推進会議設置要綱 資料2 寒川町生活支援・介護予防サービス基盤整備推進会議委員名簿 資料3 生活支援体制整備事業について 資料4 寒川町生活支援コーディネーター配置事業 令和元年度年間計画について 資料5 寒川町生活支援コーディネーター活動報告(平成31年4月～令和元年6月)

	資料6 岡田県営住宅地域における生活支援サービスについて 参考資料1 地域資源マップについて 参考資料2 生活支援コーディネーターとして気になったこと 参考資料3 社協さむかわ、社協はこね（抜粋） 参考資料4 町内字別高齢化率マップ（令和元年6月30日時点） 参考資料5 自治会マップ 参考資料6 岡田県営住宅地域の地図
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	小西 謙吾、小黒 スミ子（令和元年7月30日確定）